

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	茅ヶ崎市役所新庁舎	階数	地上7F地下1F
建設地	茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目2077番地35外	構造	SRC造
用途地域	第1種住居地域・商業地域・防火地域	平均居住人員	0人
気候区分		年間使用時間	0時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価 時間/年
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2013年8月12日
敷地面積	10,442 m ²	作成者	株式会社大建設計
建築面積	3,478 m ²	確認日	2013年8月12日
延床面積	20,052 m ²	確認者	株式会社大建設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.0 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 建設: 100%
 修繕・更新・解体: 73%
 運用: 72%
 オンサイト: 72%
 オフサイト: 72%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.0

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>●将来を見据えた次世代に残る市民の財産づくりを目指し、目指すべき新庁舎の7つの柱を実現します。</p> <p>市民の安全・安心な暮らしを支える拠点となる庁舎 継続的で持続可能な庁舎 公共サービス、事務能率の向上を目指した効率的な庁舎 市民に開かれ、いつでも気軽に交流・連携できる庁舎 人にやさしい庁舎 地球環境に配慮した庁舎 市民が愛着を持てるような庁舎</p>	<p>・災害時の自立機能を備えた防災拠点として、必要な設備を構築するとともに、市民サービスの継続を図ります。</p> <p>・各種上位計画を踏まえた敷地全体計画を行い、市域全</p>
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>・深い庇と縦ルーバーパネルの設置により室内への熱の侵入を抑制します。</p> <p>・温度と湿度を制御するデシカント空調や最適ゾーニングを行い、快適空調を実現します。</p>	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>・生物多様性を意識し、敷地全体がピオトープと呼べる環境をつくります。</p> <p>・積極的かつ効果的な緑化計画を行い、敷地内温熱環境の向上を図ります。</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>・エコボイドによる自然換気の促進、トップライトによる自然採光等、自然エネルギーの直接利用を図ります。</p> <p>・太陽光発電装置の採用により自然エネルギーの変換利用を図ります。</p>	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>・本庁舎を解体し、多くの部分を緑化された広場として利用する事で、温熱環境の改善を図ります。</p> <p>・行政拠点地区内での駐車台数の適正化及び、敷地内車路延長を確保することにより市道5563号線の渋滞緩和を図ります。</p>
<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>・市民のだれもが安全・安心に利用可能なユニバーサルデザインを採用します。</p> <p>・免震構造を採用し、地震に強い構造設計を行います。</p>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>・節水型衛生機器の採用、屋外散水への雨水利用など、水資源保護を行います。</p> <p>・積極的にリサイクル材の利用や、オゾン層を破壊しない断熱材の採用により、環境保護を図ります。</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される